

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定対象漁業集落名：宮古島漁業集落

協定参加世帯数：73 世帯（73 人）

（うち漁業世帯数：51 世帯（51 人））

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、佐良浜集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

種苗放流では、西原地区で 2,000 匹、保良地区で 2,000 匹の合計 4,000 匹のハマフエフキの放流を実施し、水産資源の維持・回復を図ることとした。また、漁業被害をもたらしているためサメ駆除を実施し、漁業被害の軽減及び安全操業を図ることとした。



種苗放流 ハマフエフキ放流（西原地区）



種苗放流 ハマフエフキ放流（保良地区）

(別紙2)



サメ駆除



サメ駆除 計量

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

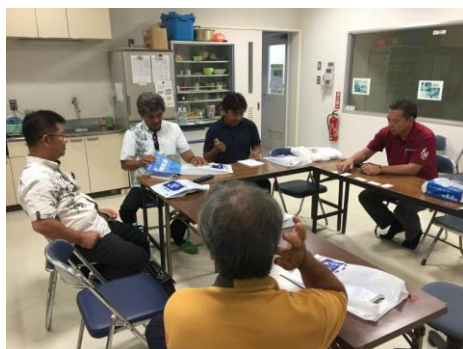
新規漁業への着業の取り組みでは、かご網漁に関して沖縄県石垣市において視察及び意見交換を実施し、かご網漁の漁具・漁法の説明を受け、実地研修を行った。今後、かご網漁に取り組んでいくか検討することとした。また、高付加価値化への取り組みとしてモズクの品質維持管理向上に関して糸満市、鳥栖市、福岡市、柳川市において視察及び意見交換を実施し、品質向上、高付加価値化を図ることとした。また、中学生を対象に追い込み網漁体験、小中学生を対象にヒトエグサ収穫体験を実施し、宮古島の漁業の魅力発信を図ることとした。また、モズク種苗の純粋培養技術の定着、夾雑物の少ない母藻の確保に向け、モズクの培養種の技術開発を実施し、宮古島産養殖モズクにおける生産の安定化と低コスト化を図ることとした。今年度は、糸モズク母藻培養確認用のための顕微鏡等の機材整備を実施した。



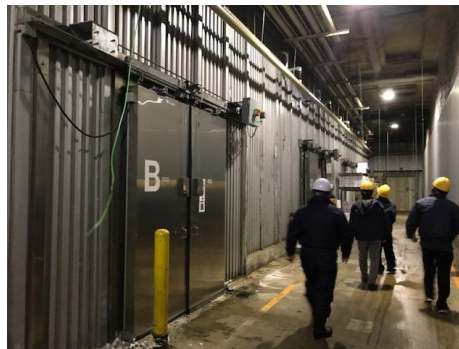
かご網漁 漁具・漁法の説明の様子



かご網漁 実地研修



沖縄県漁連 意見交換の様子



日水物流箱崎物流センター 冷凍庫視察

(別紙2)



追い込み網漁体験の様子



ヒトエグサ収穫体験の様子



位相差顕微鏡



カメラセット



位相差顕微鏡保管用ドライキャビ

4. 取組の成果

漁場の生産力の向上に関する取組については、ハマフエフキ（タマン）の放流により水産資源の維持・回復が見込まれ、放流漁場での漁業の継続性に繋がる。また、サメ駆除の実施により漁業被害の軽減及び安全操業の確保が見込まれる。

漁業の再生に関する実践的な取組については、新規漁業の着業の取り組みについては、今後の漁業者所得の向上が期待できる取り組みとなっており、また、高付加価値化の取り組みにおいては、宮古島産養殖モズクの品質向上によるブランド化につなげていくためには、急速冷凍を行ってから保管することが、施設に与える負荷軽減にとって重要であることがわかるなど、漁業者意識の変化が得られる取り組みとなった。また、体験漁業では、中学生を対象に追いこみ網漁体験、小中学生を対象にヒトエグサ収穫体験を行い漁業を体験できる機会を創出したことにより、漁業の魅力発信に繋がった。また、モズクの培養種の技術開発については、種苗の保管状態が改善されることで、更なる培養技術の向上、安定生産につながる見込みであり、技術定着に向けて、今後とも引き続き取り組んで行く予定である。